

平成 26 年度第 2 回自治体等 FM 連絡会議報告

平成26年度第2回連絡会議は、2月18日（水）、墨田区のすみだ産業会館において、70団体、124名の参加を得て開催されました。

今回は、「公共FMを具体的に進めるために ～計画策定から計画実行への流れ～」をテーマに、事例発表と質疑応答を行いました。

まず、代表幹事の開会の挨拶に続いて「公共建築のFMと保全ネットワーク」運営委員会委員長の山本首都大学東京客員教授から挨拶がありました。



事例発表は、静岡市、西尾市、宮崎市からそれぞれの実例に基づく、非常に参考となる内容の発表をしていただきました。また、それぞれの講演終了後に活発な質疑応答が行われました。発表の概要は以下のとおりです。

○静岡市「アセットマネジメント的行政のすすめ」について

静岡市の取組について、行財政改革の視点から2点とアセットマネジメントの出口について説明。

- ・1点目は、職員の考え方を変える必要性。

例えば、予算・決算の考え方から投資・回収の考え方へと、今までの慣れた考え方から新しい考え方への切り替えがないと進まない。また、施設総量最適化を検討する上では、都市政策（まちづくり）との連携が必要。

- ・2点目は、どのように合意形成していくか。

説明会により理解してもらうことから市民参画・協働へといった流れを作らないと失敗することが多い。その際、住民目線でサービスがどう変わるかという説明が大切であり、何かモデルを作っていければ理想的。回り道でも感覚的に理解してもらうことが重要。



- ・アセットマネジメントの出口について

最終的には、ライフスタイル＝クオリティ・オブ・ライフの問題まで持って行くようなイメージを持てるかどうか勝負。アセットマネジメントの出口はデザインでやっていくことを考えている。

○西尾市「西尾市が新たなまちづくりの出発点として進める公共施設再配置」について

西尾市の取組について、大きく2点に分けて説明。

- ・1点目は、公共施設再配置の基本理念と基本方針、施設白書の作成方法。

作成経緯の詳細や職員の経験談など担当者目



線で整理。

・2点目は、実施計画（再配置プロジェクト）やPFI事業の新方式（サービスプロバイダ方式）など具体的な取組内容。

4地区で開催した市民説明会（637名参加）や「にしお未来まちづくり塾（市民ワークショップ）」における大学との連携などについても経緯を詳細に整理

・FMを戦略的に進めるためには、出口戦略を見通して施設白書やFM方針を立てることが重要。市民の視点を踏まえること、民間の力を使うこと、まちづくりにつなげることができれば理想的。

○宮崎市「宮崎市の総量最適化と質の向上の実践」について

平成22年からの取組内容を大きく2点説明。

・1点目は、「総量の最適化」。

公共施設の現状を財務・品質・供給のデータをもとに比較・分析する施設評価を実施。施設所管課が評価（案）を立案し、庁内合議、市民の意見を踏まえて評価を決定する。継続の評価の施設は、適正化計画を定めて、適正な施設経営を実践中。

・2点目は、「質の向上」。

維持管理費の削減や適正な使用料の設定により、費用対効果の向上を目指す。指定管理施設の実態（決算や利用状況等）を分析し、指定管理料を着実に削減。



最後に、山本委員長から講評としてのまとめのお話があり、次回の会議が7月9、10日に青森県弘前市で開催されることが紹介されました。

連絡会議終了後の交流会では、68名の参加を得て、弘前市の紹介の他、分科会や参加自治体の先進事例等の紹介などを含め、活発な意見交換が行われました。

その主な内容は以下のとおりです。

① 大津市

FVI 評価による施設の2元管理とその運用。JFMA 技術賞を自治体として初めて受賞。保全の視点と財務の視点から施設を評価するもの。

② 自治体等女性FM会

全国の自治体の女性担当者が、勤務時間外にSKYPEを使用した勉強会を実施。また、施設管理者向けの講習材料として施設点検啓発DVDを作成。

③ 小平市

多摩地域の自治体によるFMの広域連携。定期的に勉強会を開催。来年度から、正式に分科会として発足予定。